



ニューヨーク

社会の課題を都市農業で解決



ニューヨークでは「グリーンサム」という事業により、約550ヶ所の農園が運営されています。この活動は1970年代、市の財政危機の際に荒れ果ててしまった空き地を憩いの空間として再生させようと、市民たちが植物を植え始めたのがきっかけで、現在では野菜の栽培・販売を通して、若者の就労支援や都市への新鮮な野菜の供給にも取り組んでいます。一方で近年、ベンチャー企業が行うハイテク型の都市農業も盛んなニューヨーク。ユニークなところでは商業施設の屋上に栽培施設を設け、そこでとれた作物を階下のスーパーで販売するという、まさに「とれたて♡」な取り組みも行われています。



ニューヨーク中心部公営住宅敷地内にある農園。
若者の就労支援を行っています。



ベンチャー企業によるアメリカ最大級の屋上農園 ©Brooklyn Grange Rooftop Farm